

# ～志津川で行ってきた アラメとワカメの研究について～

南三陸の海では、海藻藻場が減少する“磯焼け”の進行や、ワカメ養殖場での食害や成長不良など、海藻をめぐる環境が大きく変化しつつあります。今回、フィールドに密着した研究を長年続けてきた専門家から、最新の研究について詳しく解説いただきます。大変貴重な機会ですので、みなさま、ぜひご参加ください。

日時：2024年11月21日（木） 15時～17時  
(14時30分開場)

会場・連絡先（主催）  
〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉沖田69-2  
戸倉公民館2階 南三陸町自然環境活用センター  
(南三陸ネイチャーセンター)

tel. 0226-25-9703

## 講師



東北大学大学院農学研究科  
水圏植物生態学分野

あおき まさかず  
青木 優和 教授



# ～志津川で行ってきた アラメとワカメの研究について～

東北大学大学院農学研究科 水圏植物生態学分野 教授

あおき まさかず

青木 優和

## <プロフィール>

東京都出身。仙台在住。素潜りを始めて50年、スキューバ潜水を始めて40年になります。大学時代から、いろいろな海の生物の研究を続けてきました。現在は東北大学農学研究科で海藻と海藻に関わる動物たちの生態についての研究を行なっています。研究室の学生たちと海に潜って調査や実験を行う日々です。志津川に通い始めたのは1998年から。志津川のアラメについての調査を始めたのは震災の後からです。

## <講演内容>

志津川のアラメについての調査を始めたのは、2011年の6月からでした。まず広域の調査を行ったところ、津波後にも多くの海藻が残っていたけれど、津波に曝された場所では破損したアラメが多いことがわかりました。湾奥部の黒崎で毎月行った調査では、その後の3年間に、沖合のアラメの消失・ウニの消失と海藻の大繁茂・ウニの復活と大增殖・沖側の磯焼けといった現象が観測されました。現在はアラメの胞子が、志津川湾内でどのように分散しているのかを遺伝子解析で調べています。

志津川ワカメについては、養殖場で育成試験を繰り返してきました。夜間に青い光を当てるとワカメの成長が良くなること、幼芽を食害するニホンコツブムシを排除できる可能性があることから、現場での青色光の夜間照射実験に挑戦してきました。また、栄養塩不足が問題になっているため、施肥実験も行ってきました。できるだけコストを抑えて、ワカメの品質向上と増産を図ることは難しいのですが、改良を重ねながらより良い方法を模索しています。